

ウィーンからの凱旋



音楽監督10年の集大成
堂々の完結!

大和証券グループ Presents

佐渡裕 指揮 Yutaka Sado &
Tonkünstler-Orchester Niederösterreich
Japan Tour 2025

トーンキュンストラー管弦楽団
ピアノ: 反田恭平

モーツァルト

ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K.488

マーラー

交響曲 第5番 嬰ハ短調

2025 5.17 (土) 19:00 開演
18:15 開場 オーバード・ホール 大ホール

一般発売 / 2025年2月15日(土) AM10:00~

アスネット会員先行 / 2025年2月1日(土) のみ

お問合せ

チケット料金 S席 20,000円 A席 17,000円 B席 14,000円

C席 11,000円 D席 8,000円 / U-25(引換券) 枚数限定¥2,000(税込)

※未就学児童入場不可 ※U-25(引換券)はアスネットカウンターのみのお取り扱いとなります。

キョードー北陸チケットセンター

025-245-5100

※火~金12:00~16:00、土曜日10:00~15:00

○ ホクチケドットコム ○ アスネットカウンター

○ ローソンチケット (Lコード:53855) ○ チケットぴあ (Pコード:288-005) ○ イープラス

© Werner Kmetitsch © Takashi Iijima © Yuji Ueno

主催 = 富山テレビ放送 / 北日本新聞社 / キョードー北陸 / (公財) 富山市民文化事業団 / 富山市 特別協賛 = 大和証券グループ

古き良きウィーンの「友情の音」 10年間の蜜月関係、クライマックスへ

林田直樹 / 音楽ジャーナリスト・評論家

創立118年の伝統を持つトーンキュンストラ管弦楽団は、古き良きウィーンの音を保つ貴重なオーケストラである。2015年に音楽監督として佐渡裕が迎えられてからの10年間は、音楽的にも大きな実りあるものとなった。2024/25シーズンのプログラム冊子には、楽員たちの佐渡についてのコメントが掲載されている。そこには「より深く音楽に没頭」「これまでに経験したことのない創造性と音楽の自由」「人々をつなげる」など、心からの賞賛の言葉が並ぶ。

佐渡によるとこのオケは楽員同士の絆が深く、そのサウンドは「友情の音」だという。世界最高の音響を持つウィーン楽友協会大ホールでもリハーサルや本番を数多くおこなうことで、「生クリームで包まれたみたいにまろやかな音」を身に付けている。それを日常的に経験して佐渡自身の音楽も一層豊かになったことは間違いない。

今回の来日ツアーでは、ソリストの反田恭平とは共演を通じて気心も知れているし、マーラーの5番はこれまでも記憶すべき名演を成し遂げた思い出の曲でもある。10年間の集大成としてオケも最高の熱量と意欲を持って臨むことだろう。



Yutaka SADO
佐渡裕
指揮 / 音楽監督

京都市立芸術大学卒業。故レナード・バーンスタイン、故小澤征爾らに師事。1989年ブザンソン指揮者コンクール優勝。これまでパリ管弦楽団、ロンドン交響楽団、ケルンWDR交響楽団、バイエルン国立歌劇場管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団等、欧州の一流オーケストラに多数客演。2015年にオーストリアの名門トーンキュンストラ管弦楽団音楽監督に就任し、欧州の拠点をウィーンに置いて活動している。国内では兵庫県立芸術文化センター芸術監督、新日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督、シエナ・ウインド・オーケストラ首席指揮者、「サントリー1万人の第九」総監督等を務める。CD録音は多数あり、最新盤はトーンキュンストラ管弦楽団を指揮した21枚目のCD「マーラー：交響曲第7番」を2024年10月にリリース。著書に「棒を振る人生～指揮者は時間を彫刻する～」(PHP文庫／新書)など。出光音楽賞(1991年)、モンブラン国際文化賞(2003年)、渡邊暁雄音楽基金音楽賞(2003年)、岩谷時子賞(2014年)等の受賞歴がある。

<http://yutaka-sado.meetsfan.jp>

©Peter Rigaud c/o Shotview Artists



Kyoko SORITA
反田恭平
ピアノ

2021年第18回ショパン国際ピアノ・コンクールにて、日本では半世紀ぶりの第2位を受賞。2016年1月サントリーホールにてデビュー・リサイタルを開催、チケットは即完売大型アーティストの登場として注目を集めた。2018年株式会社NEXUSの立ち上げと同時に、同年代の実力派アーティストを迎え「MLMダブル・カルテット」を結成、プロデュース。2021年には「Japan National Orchestra (JNO)」に発展し、株式会社化して奈良を拠点にアウトリーチ活動や、奈良県の文化活動の振興に寄与している。全国ツアーでは各地完売が続き、日本一チケットの取れないピアニストとして話題を集めている。若手音楽家とファンを繋ぐコミュニケーションの場として、音楽サロン「Solistiade」を立ち上げ、運営するなど、クラシック音楽ファン拡大のための活動も精力的に行なっている。現在は活動の拠点をウィーンへ移し、ヨーロッパ、カナダ、オーストラリア等に活動の場を広げ、2024年5月にはザルツブルグにて指揮者デビューも果たした。フォーブス誌の「Forbes 30 Under 30 Asia - Class of 2024」に選出された。

<https://kyoheisorita.com/>

©Yuji Ueno

トーンキュンストラ管弦楽団 TONKÜNSTLER ORCHESTER

Tonkünstler-Orchester Niederösterreich

トーンキュンストラ管弦楽団は1907年創設、120年近い歴史を持ち、オーストリアおよびウィーンの音楽文化の中で最も重要な役割を果たしてきた。これまでにクナッパースツブッシュ、ファビオ・ルイーゼ、クリスチャン・ヤルヴィらが首席指揮者を務めた。現在はニーダーエースターライヒ州のオーケストラとして、州都ザンクトペルテンの「祝祭劇場」、ウィーンの「楽友協会ホール」、ウィーン郊外の広大な敷地に野外音楽堂を有する「グラフェネッグ」と3つの拠点を有し、2007年設立の「グラフェネッグ国際音楽祭」においては毎夏レジデント・オーケストラを務めている。2015/16年シーズンより佐渡裕が音楽監督に就任し25年まで任期が延長された後、2025/26年シーズンよりファビアン・ガベルが後任を務める。2016年、18年の日本ツアーの他、17年、18年の英国、19年のドイツツアーも音楽監督佐渡裕の指揮で大成功をおさめた。

<https://www.tonkuenster.at/de>

© Martina Siebenhandl

